

「自分の命は自分で守ってね」

愛知・豊田市立稲武小学校で Dr. ナダレンジャーの理科実験教室

ベルマーク財団のへき地校支援出前授業「理科実験教室」が12月10日、愛知県豊田市立稲武小学校(佐々木祐次校長、児童65人)でありました。講師は、派手なカツラとメガネ姿のDr. ナダレンジャーこと、防災科学技術研究所の納口恭明さんと、助手のナダレンコこと罇優子さんのお二人です。

授業は3年生以上の児童47人と先生方が対象。集まった子どもたちは、ナダレンジャーとナダレンコに変身したお二人を見て「だれ?」「こわ〜い」と驚きつつ、興味津々の様子。「おじさんのことを博士と思う人?」全員シーン。「それじゃ不審者と思う人?」一斉に「はい」。「もしこんな人がいたら不審者として先生に言って下さい」。どっと笑う子どもたち。すっかりナダレンジャーのペースを楽しんでいます。

空気砲の実験では、風を当ててほしいと手をあげる子が続出。雪崩を疑似体験できる「ナダレンジャー0号」実験でも体験希望者が後を絶ちません。どよめきと笑いが連続する中、ナダレンジャーは「被害が出て災害になる巨大な現象も、小さくするとオモチャになる」「自分

の命は自分で守ることが大切。これを忘れると災害に負けちゃいます」と大事な話をはさんでいきます。

地盤液状化を再現する「エッキー」を全員で工作し、ひとしきり楽しんだ後は、いよいよクライマックスの地震の実験。発泡スチロールのブロックを高く積み、揺れで崩れ落ちるのを疑似体験してもらいます。「これが本当に起こったら死んじゃうかもしれないことなので、ぜひ思い出してね」とナダレンジャー。

あっという間に1時間が過ぎ、楽しかった授業もおしまいに。素顔に戻った納口さんと罇さんに、児童を代表して6年生の小木曾弘基くんが「今日はどうもありがとうございました」とお礼を述べました。

山田教頭先生は、授業中に子どもたちと一緒に挙手しているのを納口さんに見つかり、「先生はだめ」と突っ込まれていました。「私自身楽しくて、思わず生徒の気分になりました。きっと子どもたちの心に残る授業になります」。授業の後も、何人かの子どもたちが会場を去らずに納口さんと罇さんに近寄り、うれしそうに話しかけていたのが印象的でした。



④ナダレンコとの掛け合いは見事⑤高く積んだブロックを揺らす
⑥振ったエッキーを見つめて待つ

今年も「ベルマーク祭り」

静岡・沼津市立片浜小、地区のコミュニティ祭りでイベント

静岡県沼津市の市立片浜小学校でベルマークを担当している母親委員会は、毎年秋に「ベルマーク祭り」を開いています。同校の体育館には片浜地区センターが併設されており、そこで開かれる地区のコミュニティ祭りとの合同開催で、5年ほど前から始まり、今では地域にすっかり定着した催しです。今年もコミ祭の11月18日(日)、地区センターの一室に大きな「ベルマーク祭り」の横断幕が掲げられました。

来場者は受付で名前を書いてクイズラリーに参加します。コミ祭のブースにはベルマークに関するクイズが貼られているので、解答用紙と鉛筆を持って回り、全8問を解いたら再度、会場に戻って答え合わせします。

問題は「ベルマークはどの程度欠けても使えるか」「片浜小はベルマーク運動を何年やっているか」など。答えは三択方式で、各クイズにはヒントも書かれています。「半分くらいの方が全問正解してくれました」と母親委員長の方藤美咲さん。

答え合わせの後、参加者には袋に入った5枚のベルマークが渡されます。会場中央にはベルマーク番号の付

いたイチゴパックが並べられ、実際の仕分け作業を「体験」してもらいます。小さなお子さんやお年寄りにはサポート役も付きます。仕分けを終えたら、空になった袋を持ってくじ引きエリアへ。そこで袋と交換に1回くじを引きます。森永製菓(ベルマーク番号26)のお菓子や、グッズなどがあたります。会場の一角にはベルマークの付いた商品やインクカートリッジの展示も。この日はクイズラリーに226人が参加してくれました。

片浜小は1992年からベルマーク運動に参加。昨年度は県内の集票点数ランクで7位に入りました。累計点数は291万点で、300万点の台も間近です。工藤さんは「クイズは正答を競うのではなく、ベルマークに親んでもらうのが目的。子どもからお年寄りまで、色々な世代の方が楽しんでいってくれました。ベルマークを通じた交流の場になっています」と話してくれました。会場では「以前は孫にマークを持たせていたが、今はどこに持っていけばいいかわからない」というお年寄りに「では片浜小に持ってきてください」とお願いするなど、埋もれたマークの発掘にも役立っているようです。



④ベルマーク祭りの会場⑤仕分け体験
⑥くじ引きにはたくさんの人だかり

エコプロ2018に協賛会社6社が出展

日本最大級の環境展示会、東京ビッグサイトで

日本最大級の環境展示会「エコプロ2018」が12月6～8日、東京ビッグサイト(東京都江東区)で開かれ、3日間で16万人余りが訪れました。企業やNPO、大学など650団体が出展。ベルマークの協賛会社からもイオントップバリュ(ベルマーク番号01)、キヤノンマーケティングジャパン(同19)、クラレトレーディング(同30)、エプソン販売(同73)、NGP日本自動車リサイクル事業協同組合(同76)、味の素(同83)の6社が参加しました。

各社とも映像やパネル、資料など工夫をこらした内容で、エコバックやサンプルを配布する会社もあり、来場者は時間をめいっぱい使ってブースをまわっていました。ビジネス目的で訪れるスーツ姿の来場者のほか、社会科見学のため数人のグループで会場をまわる小中学生も多くみられ、各ブースの担当者に熱心に話を聞きメモを取る様子が印象的でした。



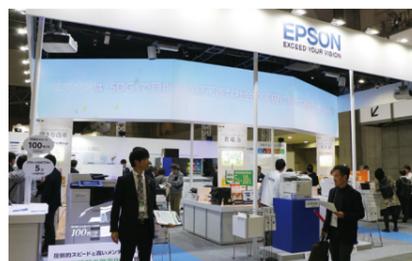
イオントップバリュ



キヤノンマーケティングジャパン



クラレトレーディング



エプソン販売



NGP日本自動車リサイクル事業協同組合



味の素